

第 83 回各県中央メーデー

(東京地連・秋田地連)

東京中央メーデー：雇用の再生なくして被災地の復興・再生なし 全自交東京地連 500 名が参加



第 83 回メーデー中央大会が 4 月 28 日代々木公園で開かれました。主催者発表で 35,000 名が集まりました。全自交東京地連からは約 500 名が参加をしました。古賀会長より、東日本大震災についてふれ、被災地の生活再建のために地域経済を再生をし、働く場を確保することの重要性について述べ「雇用の再生なくして、被災地の復興・再生なし」と訴えました。また「働くことを軸とする安心社会を実現する必要性を主張し「困難な時代を乗り越えるリーダーシップのある政治を実現させる努力を続ける」と述べました。



来賓として出席した野田総理は、政府・民主党としてスピードを上げて全力で復興に取り組む決意を表明し「政権交代時にできなかった事が次々に実現していることは紛れも無い事実であり、政権交代の大義を忘れることなく民主党らしい改革を断行する」「子どもたちの元気、地方の元気、働く人たちの元気の三つの元気を実現するために社会保障と税の一体化を何としても実現しなければならない」と訴えました。

福島社民党党首から「昨年 3.11 に発生した大地震と津波は甚大な被害をもたらしました。そうした中、全国の仲間の皆さんが、カンパやボランティアなど様々な支援活動を行ってきたことに敬意を表します。あれから 1 年以上がたちましたが、復興の足跡は遅々としており、避難生活の長期化が高齢者の健康を蝕むなど、弱者へのしわ寄せが拡大しています。今こそ労働運動が問われているときはありません。働く者の英知と連帯の力で東日本大震災を乗り越え、働く者が大事にされ、平和で安心な希望が持てる社会の実現に向け共に頑張りましょう」と力強い挨拶がありました。





その後、NGO・NPOの連帯挨拶、非正規労働者からの訴え、連合東北ブロック連絡会の砂金代表幹事による代表アピールと続きました。メーデー宣言を満場の拍手によって確認しました。

最後に「がんばろう三唱」にて閉会しました。

秋田中央メーデー：安心して暮らせる社会の実現 3000名が大会宣言を採択

労働者の祭典、第83回メーデーは5月1日、震災の影響により昨年に引き続き中止となった釜石地区を除く県内各地域で3000人(主催者発表)が参加して開催されました。



連合岩手(砂金文昭会長)は盛岡市内の岩手公園で集会を開き、被災地の雇用と生活の再建に全力を尽くすことを確認しました。

盛岡支部組合員は、開始2時間前に桜満開に咲く会場に集結し、東館書記長からチラシ配布行動の注意事項を聞き、参加者、通行人にタクシー利用促進のチラシ1000枚を会場周辺で這い活動を行いました。

また、他の県内メーデー会場とその周辺でも2500枚の配布活動が行われました。チラシを見た参加者や通行人、観光客から「震災で大変な被害を受けたようだが、頑張ってください」と声を掛けられ、激励を受けました。

盛岡市の岩手公園で開催されたメーデーには、達増知事、谷藤市長らとともに震災時に物資支援やボランティア活動に積極的に関わっていただいた連合秋田の東海林悟会長が来賓として出席し、激励を受けました。

実行委員長の砂金会長は「労働者には復興需要の実感が伴っていない。復興推進を担う県内労働者が相応に評価されることを期待する」「被災地の再生は安心して生活ができる安定した雇用の確保」と雇用の重要性を強調。その上で「復興、再生を通じて、新しい岩手の社会を構築していくための歩みを止めてはならない」と述べました。



ガンバロー三唱で団結し、森委員長や細川光正盛岡市議会議員、盛岡支部幹部が「全国の仲間の支援に感謝」「職場と地域の再生へ、更に頑張ろう」の横断幕を先頭に「全ての戦争反対」「平和憲法守ろう」と声を張り上げ市内をデモ行進しました。

終了後に満開に咲いた桜の下で組合員によるお花見交流会が連合盛岡、盛岡地区労センター、社民党、細川市議なども参加して開催しました。

震災からの復興・再生の誓いと、ハイタク労働者の生活改善に全力で取り組む事を参加者全員で確認し合いました。